

# 今なぜ「包摂」の推進が必要なのか — 埼玉モデルの確立を目指して —

久野 譜也

筑波大学大学院人間総合科学学術院 教授  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラムディレクター

## ■ はじめに

包摂とは、英語で示すと「Inclusion」であり、辞書を引くと、「社会的に弱い立場にある人々も含め市民一人ひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考えをいう」と示されています。

内閣府は、我が国の14の政策課題に対して科学技術を基盤として解決を目指す「戦略的イノベーション創造プログラム：SIP（第3期）」を昨年度から5年間の予定でスタートしています。その14課題の一つが、私がプログラムディレクター（PD）を務めております「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」という課題になります。政府が、国の重要課題の一つとして、これを選択したということは、国際的観点からもあります。一方でわが国固有の課題としても無視できない事象が多々起こっているからとなります。「包摂」課題では、包摂を「社会の寛容性」と「個人の自律性」を高めることと定義しました。また、最近経営の分野でも「D & I経営」という単語が良く用いられており、DはDiversity（多様性）、Iは包摂（Inclusion）ですが、我々のプロジェクトでは、この多様性という概念も含めて捉えています。

そして、現在包摂のプロジェクトでは、①戸建て団地や市街地の再生、②女性の健康課題の解決や活躍推

進、③高齢者や障がい者の課題解決、④生きづらさを感じる人の減少、に取り組み、国民のwell-being最大化を目指す社会技術（＝社会をより良い方向性へ導く手法）の開発を目指して、9つのテーマを設定し、それぞれの最終ゴールとしては、包摂な社会の確立・持続を支える制度やビジネスの創出を目指しています。

今回、この特集は全6回を計画しており、この課題内で各テーマを推進している方々に登壇いただく予定です。第2回は今回紹介する「埼玉モデル」の推進に関係が強い「妊産婦への健幸サポート」について(株)つくばウェルネスリサーチの取締役副社長の塚尾晶子氏に、第3回は「女性活躍」について(株)NTTデータ経営研究所ヘルスケアDXウェルビーインググループ長の米澤麻子氏に、第4回は「ルッキズム（＝外見や容姿を基準に人を判断したり差別したりする思想や社会現象を意味する）からの脱却」の中で、とくに女性の健康を主眼として、順天堂大学医学部教授の田村好史氏に、第5回は生きづらさを感じている人々の一つとして「LGBTにおける我が国の実態と今後のあるべき姿」について立命館大学スポーツ健康科学部教授の清家理氏に、そして最終回は女性活躍をサポートする「埼玉モデル」の進捗と課題について筆者が解説する予定です。

## ■ 女性活躍をサポートする「埼玉モデル」とは

本年9月19日に、武蔵野銀行本店の大会議室で埼玉県内の経営者を中心に100人以上が参加して、「埼玉モデル」がキックオフすることの告知を目的としたセミナー（基調講演やシンポジウムで構成）が開催されました（プログラムは29頁参照）。会場は、熱気に包まれ、女性の健康課題の解説、健康経営に関して熱心な議論が展開され、この様子はNHKの首都圏





#### プロフィール

筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授。

筑波大学大学院博士課程医学研究科修了。医学博士。2011年より現職。

2002年 健康増進分野日本初の大学発VB株式会社つくばウエルネスリサーチを設立。代表取締役社長兼任。

2015年 Smart Wellness Community 協議会を立ち上げ、副理事長就任。

2009年 科学的根拠に基づいた高齢化社会に対する日本の健康政策の構築を目指して、全国8市長と Smart Wellness City 首長研究会を立ち上げ、現在43都道府県133市区町村に拡大。

現在、内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」課題 プログラムディレクターを兼務する。

主な著書：「寝たきりになりたくないなら大腰筋を鍛えなさい」「股関節の痛みを取ると健康になる」「病気になる背筋と腹筋の鍛え方」(PHP出版)「サルコペニア肥満解消ダイエット」(朝日新聞出版)など多数。

主な出演番組：NHK総合テレビ「ためしてガッテン」「あさイチ」やフジテレビ系列「ホンマでっか!?TV」テレビ朝日系列「モーニングバード!」など。

ニュース、日経新聞などにも取り上げられました。

私も基調講演で登壇し、先ず下記のように3つを聴衆に投げかけました。

#### 今日の Key メッセージ

1. 包摂って何？
2. なぜ今健幸経営が求められるのか？
3. あなたの会社は包摂的ですか？

そこでは、企業の経営者らの皆さんに理解して欲しいこととして、以下の3点をお話しました。

- ❶人口減がさらに進む現在、そして将来を見据えて、女性も高齢者も働かないと我々の日常的な生活や経済規模は維持できないこと
- ❷一方、活躍が期待される女性や高齢者においては、それぞれに特有な健康課題が存在し、それらの課題が顕在化しないような体制を企業も作っていかないと、経営的な困難さが増すリスクが高いこと
- ❸とくに、現在多くの企業で人手不足が顕在化している中で、今後これらの層における健康リスクの減少に対する対策を具体化した「健幸経営」を推進していかないと、現在の社員や将来の社員候補から見放される

企業となっていく社会に突入していること

「埼玉モデル」とは、大企業だけではなく、中小企業も含めて、日本の企業が包摂的な企業経営を推進するためのサポートシステムを先ず我が国の中で先駆けとして構築することをSIPの国家プロジェクトとして推進することを指します。私はこのプロジェクトが上手く進むという認識を持っています。その理由は、埼玉県内の多数の企業と密接な関係を持つ武蔵野銀行が中核的なメンバーとしてチームに参加しているためです。さらに、前述のセミナーに100社以上が参加したという事実です。今後、モデルの具体化を推進していきます。このレポートを読んだ読者でわが社でも推進したいという方は、ぶぎん地域経済研究所まで是非連絡をお願いします。

#### ■おわりに

最後に、下図に包摂的企業経営 (= 健幸経営) の考え方を示しました。5年後、そして10年後を見据えたこの経営方針を理解いただき、より元気な企業が多い埼玉県を目指していきたいと思えます。

### 包摂的企業経営 (= 健幸経営)

多様性を理解し、社員一人ひとり、年齢、性差、健康状態等に伴う排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社員の健幸度が高くなることにより、企業の生産性が向上する経営



**武蔵野銀行や埼玉県内の企業と連携して、  
健幸経営の「埼玉モデル」を今年度から構築予定  
多くの企業の参加を！**